

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520724

研究課題名(和文) モンゴルにおける地図作成とガバナンス

研究課題名(英文) Making of maps and governance in Mongolia

研究代表者

二木 博史 (FUTAKI, HIROSHI)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：90219072

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：モンゴル国立図書館、モンゴル国立中央文書館、ドイツ・ベルリン州立図書館、日本・天理図書館に所蔵される清代、1910、1920年代の手書きの地図がどのような行政上の必要から作成されたかについて、地図と関連資料、とくに添付された目録と文書の精査にもとづいて研究した。  
清末に『会典輿図』編纂のための基礎作業として作成されたザサグト・ハン・アイマグ地図を事例に、盟地図と旗地図の作成の関係をあきらかにした。

研究成果の概要(英文)：Based on the study of manuscript maps and related source materials, especially boundary reports sent to the central government during the Qing dynasty and the independent Mongol state in the 1910s and the 1920s, we investigated problems such as the influence of administrative policies upon making of these maps in the possession of the National Library of Mongolia, the National Central Archives of Mongolia, the Berlin State Library of Germany and the Tenri Library of Japan.  
For example, the newly discovered manuscript map of the Zasagt khan aimag of Outer Mongolia drawn in 1891 was prepared for the compilation of the Daqing Huidiantu or Illustrations for the Assembled Canon of the Great Qing.

研究分野：モンゴル史

キーワード：モンゴル史 地図作成 ガバナンス 清朝 独立モンゴル王国 盟地図 旗地図

## 1. 研究開始当初の背景

(1) モンゴルの古地図はおもに、地図そのものの研究、地名研究、歴史研究というみっつの方向のなかで、利用されてきた。清代における作図法の研究を代表するのは、モンゴルの学者シャグダルスレンの著作(Shagdarsüren, Ts. 2003)で、清代にさだめられた規定が独立後のモンゴルでもそのままつかわれたことを指摘している。ヨーロッパでの地図・地名研究の最高峰は、ドイツのモンゴル学者ハイシッヒらの仕事で、ドイツに所蔵される古地図コレクションを出版し、有用な地名インデックスを作成した(*Mongolische Ortsnamen Teil I-III*, 1966-1981)。またモンゴルの学者ラブダンは、モンゴル国立図書館、国立中央文書館に所蔵される古地図に記録された地名を網羅的に研究し、地名研究に貢献している(Ravdan 2008)。

(2) これらの研究は、いわば伝統的な東洋学、文献学、歴史学の方法でおこなわれているものであり、精密な記述は信頼できる基礎データの提示として十分評価しうる。他方、ひとつのディシプリンに忠実なあまり、隣接の学問分野との積極的な交流という面からは、ややもの足りない面があることも否定できない。たとえば、移動牧畜をおもな生業とするモンゴルにおける土地利用と地図の関係とか、モンゴル人の景観認識の地図への反映といった、重要な問題への関心はたかくない。われわれは、このようなそれまでの研究への批判にもとづき、モンゴル古地図のあらたな研究を模索してきた。その最初の成果は、Futaki Hiroshi and Kamimura Akira (eds.) *Landscapes Reflected in Old Mongolian Maps*, Tokyo, 2005 (東京外国語大学大学院 21 世紀 COE プログラム『史資料ハブ地域文化研究拠点』叢書)である。同書は、本プログラムで収集したモンゴル古地図の解題、作図法・景観認識についての論文(上村)、地図とともに作成され清朝政府に送付された境界報告書についての論文(二木)、地図・境界報告書の写真、地図画像・文字情報データベースの収録された CD をおさめる。

(3) COE プログラムでの成果を出発点として、われわれは 2009~2012 年に科学研究費補助金課題「モンゴルにおける景観認識の歴史古地図の研究」、トヨタ財団からの研究助成「遊牧民が描いた郷土の景観 モンゴルの古地図の調査・保存・解題とデータベース・WEB サイトの構築」(2009~2011) をえて、清代のモンゴルの地図のデジタル化、研究につとめ、2011 年 8 月にはウランバートルで地図・地名研究のワークショップ「モンゴルにおける地名と地図の研究の伝統」を開催するなど、モンゴルの研究者をもまきこむかたちで、あらたなモンゴル地図研究のわくぐみを提示してきた。

## 2. 研究の目的

(1) これまで COE プログラム、科研費、トヨタ財団研究助成の研究であつた清代の

地図の研究の成果をふまえ、これまで主たる対象とはされなかった 1910、20 年代における地図作成をも視野にいれ、各時期における地図、付属報告書をガバナンスの観点から分析し、“地図の政治性”の問題を解明する。

(2) 為政者にとって各地域の境界の確定、紛争の防止は行政上、もっとも重視され、地図の作成の主要な目的でもあった。モンゴル各地域の地図と付属文書たる境界報告書は、ガバナンスのための基礎資料であったゆえ、これらを収集、分析する作業をとおして、これらの地域における権力の確立を具体的にあきらかにする。

(3) 地図作成の命令がいかなる歴史的背景のなかでなされたのか、それがどのように実行されたのかについて、文書資料と地図の分析によってあきらかにする。

(4) 景観の多様性にもとづく差異をも念頭におきつつ、作図法の時代的変遷とその政治的要因をあきらかにし、地図資料の適切な利用法を具体的に提示する。

## 3. 研究の方法

(1) モンゴル国立図書館、モンゴル国立中央文書館に所蔵される清代、モンゴル王国、革命政権の時代の地図を、デジタル化、複写等の方法で収集し、ドイツのベルリン州立図書館に所蔵され、現在はウェブ上で公開されている地図や、日本の天理図書館に所蔵される同種の地図をも視野にいれつつ、分析をおこなう。

(2) 特に行政単位である盟や旗の地図が、政府のいかなる命令にもとづいて、どのようなプロセスをへて作成されたのかについて、詳細にしらべる。

(3) 現地調査をおこない、古地図に記録された情報を現在の地名・景観と比較して、手書きの地図の特徴を実証的に解明する。

(4) 中央文書館に所蔵される地図作成の命令にかかわる文書資料を体系的に調査、複写し、中央政府の政策と地図作成の関係を整理する。

(5) 研究の最終年度にモンゴルの地図・地名に関する国際シンポジウムをモンゴルにおいて開催し、本研究における研究成果を紹介するとともに、それに対する評価をあおぐ。

## 4. 研究成果

(1) 2011 年にウランバートルで開催したモンゴルの地図・地名に関する国際シンポジウムでの報告をもとにした論文に他の研究者の論考をもくわえ、2012 年に Futaki Hiroshi et al. (eds.) *Mongol orny gazryn zurag bolon gazar nutgiin neriin sudalgaany asuudal*, Ulaanbaatar を刊行した。本論文集は、モンゴルの地図・地名をテーマにした国際共同研究の世界で最初の具体的な成果とみなすことができる。

(2) 2013 年 8 月、研究代表者・分担者が清代、独立モンゴル王国時代のトゥシェート・ハン・アイマグ中旗の地図に記録された情報の

うち、東部地域、すなわち旧セチェン・ハン・アイマグと境を接する地域（現在のトゥブ県とヘンティー県の境界の地域）の境界オポー（境界標識）同旗の中心寺院たるズーンフレエ寺址の現地調査を実施した。探査をめざした4ヶ所の境界オポーのうち、3ヶ所については、古地図の記載、境界報告書（*nutug-uncese*）の記述、GPSデータの比較により、ほぼその場所を同定することに成功した。行政組織の変遷にともない、地理的特徴の利用のしかたが若干かわったことがわかった。

(3) 現地調査のあと、研究代表者はモンゴル国立図書館で、トゥシェート・ハン・アイマグ中旗の3種類の境界報告書（1800年代、1910年代、1920年代）を精査し、清の嘉慶時代には、上記調査地のオポーはまだ設置されず、ヘルレン河が境界になっていた等の基本的な情報をえるとともに、境界報告書が、中旗のなかに位置した寺院都市イフフレ（現在のウランバートル）と中旗の関係をあきらかにするための基本的史料として利用しうることを確認した。本調査の中間報告を「モンゴルで境界オポーをさがす 旧トゥシェート・ハン・アイマグ中旗現地調査報告」として雑誌に掲載した。

(4) 研究代表者は最終年度の2014年の8月にモンゴル国立中央文書館で1910年代の地図作成に関する政府の指示、それに関する地方の役所の対応についての文書をおもに閲覧し、清代に確立された地図作成に関する行政が独立後の王制モンゴル国時代にも継続された点、1915年のモンゴル・中国・ロシアの三国協定で規定された、外モンゴルと中華国内の他の地域の境界の画定のために地図作成の指示がだされた点がいへん重要であることをあきらかにした。

(5) 研究代表者は、盟と旗の地図の作成方法に関して、あらたに発見した個人所有の光緒17年（1891年）のザサグト・ハン・アイマグ地図を事例に研究をおこなった。本地図は、清朝の国家プロジェクトたる『会典輿図』編纂のための基礎作業としてつくられたため、これまでしられていた1908年地図にくらべ、その精度がたかく、きわめて詳細にえがかれている。ベルリン州立図書館と天理図書館に所蔵されているザサグト・ハン・アイマグ諸旗の地図は、アイマグ地図の原図ではなく、逆にアイマグ地図の各部分を分割した地図なので、地図としては独自の価値を有さないことをあきらかにした。

(6) 研究分担者は、旗単位の地図が作成されなかったアルタイ・オリアンハイ7旗をえがいた1900年代から1920年代までの4種類の地図をとりあげ、各地図の特徴、印の種類、地図に反映されたアルタイ・オリアンハイ人の意識を分析した。

(7) 2014年8月にモンゴルのウランバートルで、モンゴル科学アカデミー歴史研究所、モンゴル国立大学モンゴル研究センター等と共催で、本研究課題の整理もふくめ、モン

ゴルの地図・地名に関する国際シンポジウム「モンゴル人と地図 モンゴルの地図・地名の歴史的・文化的研究」を開催した。同シンポジウムには5カ国の研究者が参加し、26本の報告がなされ、世界的な規模でのモンゴルの地図・地名研究の発展に貢献したと評価された。

(8) 研究期間全体をとおして、モンゴル国立図書館、モンゴル国立中央文書館、ドイツ・ベルリン州立図書館、日本・天理図書館に所蔵される清代、1910、1920年代の手書きの地図がどのような行政上の必要から作成されたかについて、地図と関連資料、とくに添付された目録と文書の精査にもとづいて研究するという本プロジェクトの目的は、それぞれの時期の地図作成の命令とその政策的背景をほぼあきらかにしえたという点からみて、基本的に達成されたとみることができる。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 8 件）

Kamimura Akira, “Altai uriankhain doloon khoshuuny gazryn zurgiiin tukhai,” Futaki Hiroshi et al. (eds.) (in print) *Mongol orny gazryn zurag bolon gazar nutgiin neriin sudalgaany asuudal II*, 査読無, Ulaanbaatar, 2015.

Kamimura Akira, “Altain uriankhachuud “ekh ornoosoo durvesen uu?”, “ekh orondoo butssan uu?” --- 1930 ond Altain uriankhachuud Altai davsan ni,” Na. Sukhbaatar et al. (eds.) (in print), *Uriankhain tuukh soyolyn sudalгаа*, 査読無, Ulaanbaatar, 2015.

二木博史、新発見の1891年作成のザサグト・ハン・アイマグ地図 清代ハルハ・モンゴルのアイマグ地図の典型、東京外国語大学論集、89巻、査読無、2014年、27-44.

Futaki Hiroshi, “Manj Chin ulsyn uyed mongol lam khuvragt olgoj baisan ‘gerees garsan temdeg bichig (dudie)-iin tukhaid,” 烏雲畢力格編『滿蒙档案与蒙古史研究』、査読無、2014年、272-292.

二木博史、モンゴルで境界オポーをさがす 旧トゥシェート・ハン・アイマグ中旗現地調査報告、日本とモンゴル、127号、査読無、2013年、67-82.

二木博史、清代にモンゴル人僧侶にあたえられた度牒について、東京外国語大学論集、89巻、査読無、2013年、1-19.

ムンゲンフーギーン・ガンボルド、上村明 景観に刻まれた歴史 20世紀初めのアルタイ・オリアンハイ左翼副都統旗の地図について、*The History of Culture of Mongols in the 20<sup>th</sup> Century: Collection of Treatises in the 2011 International Symposium in Ulaanbaatar*, 査読無、2012年、223-242.

Futaki Hiroshi, Noyon khutagt Danzanravjaagiin zokhioson Agva datsangiin

jayagiin jisheegeer XIX zuuny uyeiin buddyn shashny mongolchlolyn tukhai oguulekh ni, *Acta Mongolica*, 12 (366), 73-78.

〔学会発表〕(計 8 件)

Hiroshi Futaki, Ovor Mongolyn khevleliin tuukhen dekh Terguun noyony ordny darmalyn gazar ba Saichungaagiin zokhiuluud, *International Symposium: Na. Sayinchogt and Inner Mongolian Modern Culture*, Apr. 26, 2014, Peking, China.

Hiroshi Futaki, Chin ulsyn uyeiin Zasagt khan aimgiin gazryn zurgiiin tukhaid, *International Symposium: The Mongols on Maps --- Historical and Cultural Studies on Mongolian Maps and Toponyms*, Aug. 22, 2014, Ulaanbaatar, Mongolia.

Kamimura Akira, Altain uriankhain doloon khoshuuny gazryn zurgiiin tukhai, *International Symposium: The Mongols on Maps --- Historical and Cultural Studies on Mongolian Maps and Toponyms*, Aug. 22, 2014, Ulaanbaatar, Mongolia.

Hiroshi Futaki, Javzandamba khutagtyn mongol namtryn togsgoliin yorool, *International Conference "Textual Studies of Mongolian Literature"*, Aug. 21, 2013, Ulaanbaatar, Mongolia.

上村明、モンゴルの古地図と清朝のモンゴル支配、日本モンゴル学会、2013 年 5 月 18 日。

Futaki Hiroshi, Noyon khutagt Danzanravjaagiin zokhioson Agva datsangiin jayagiin jisheegeer XIX zuuny uyeiin buddyn shashny mongolchlolyn tukhai oguulekh ni, *International Scientific Conference "Mongolian Studies --- New Approaches"*, Aug. 16, Ulaanbaatar, Mongolia.

Futaki Hiroshi, Panmongol'skoe dvizhenie 1919 g. i deiatel'nost' buriatskikh natsionalistov, *The Fourth International Conference "Past and Present of the World Mongols*, Ulan-Ude, Russia.

Futaki Hiroshi, Enkh amgalangiin 15 ond zokhioson dudiegiin tukahi, *International Conference: The History of the Mongols in the Light of the Manchu-Mongol Archives*, Oct. 13, Peking, China.

〔図書〕(計 4 件)

吉田ゆり子他編、画像史料論、東京外国語大学出版会、2014 年、325 [上村明「地図の描き方と統治の手法 モンゴルの古地図をめぐって」、二木博史「山縣大尉の外モンゴル調査と軍用地図」を収録]

T.Monkhtsetseg, H.Futaki, *Mongolyn niigem soyolyn tovchoon*, Ulaanbaatar, 2013, 160.

Futaki Hiroshi et al. (eds.) *Mongol orny gazryn zurag bolon gazar nutgiin neriin sudalgaany asuudal*, Ulaanbaatar, 2012, 135. [Kamimura Akira, "Mongolyn khoshuu nutgiin zurgiiin zuin khuvisal ba Chin ulsyn mongol zakhirгаа," Futaki Hiroshi, "Yapony sudlaach, tsergiin khunii

uldeesen XX zuuny ekhiin Ar mongolyn zuun khesgiin gazarzuin tukhai medeelel"を収録]

H.Futaki, T.Monkhtsetseg, *Mongolyn tuukhiin tovchoon*, Ulaanbaatar, 2012, 123.

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

二木 博史 (FUTAKI HIROSHI)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：90219072

### (2)研究分担者

上村 明 (KAMIMURA AKIRA)

東京外国語大学・外国語学部・研究員

研究者番号：90376830

### (3)研究協力者

Ts. Shagdarsüren

オランパータル大学教授

L. Altanzayaa

モンゴル国立教育大学教授

J. Bat-Ireedui

モンゴル国立大学モンゴル研究センター長

E. Ravdan

モンゴル国立大学地名研究センター長

S. Chuluun

モンゴル科学アカデミー歴史研究所張